

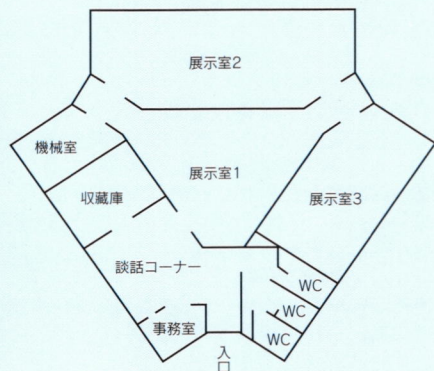
◆利用案内

開館時間 午前9時～午後5時
(但し、入館は4時30分まで)

休館日 毎週月曜日、年末年始
(但し、月曜日が祝祭日の場合はその翌日)

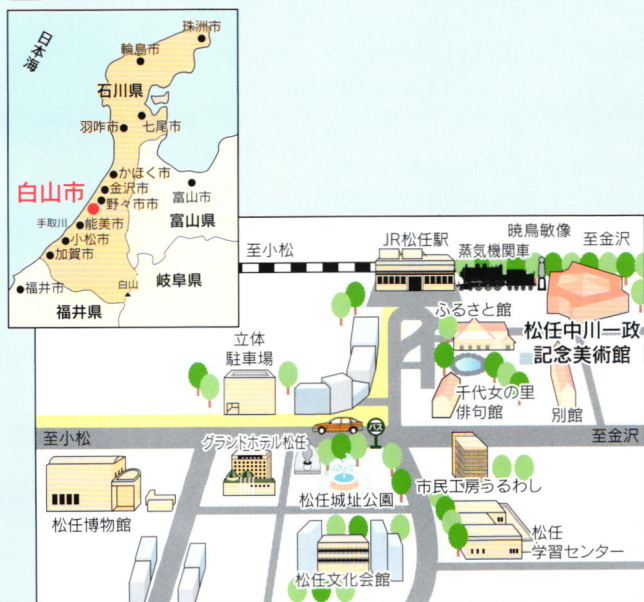
入館料 大人 200円
高校生 100円
※団体(20名以上)は各々半額
※ただし、特別展の場合は別途料金

◆館の概要



鉄筋コンクリート造平家建
敷地面積 2,760m²
床延面積 405m²

◆周辺の地図



中政 生誕 120年

白山市立 松任中川一政記念美術館

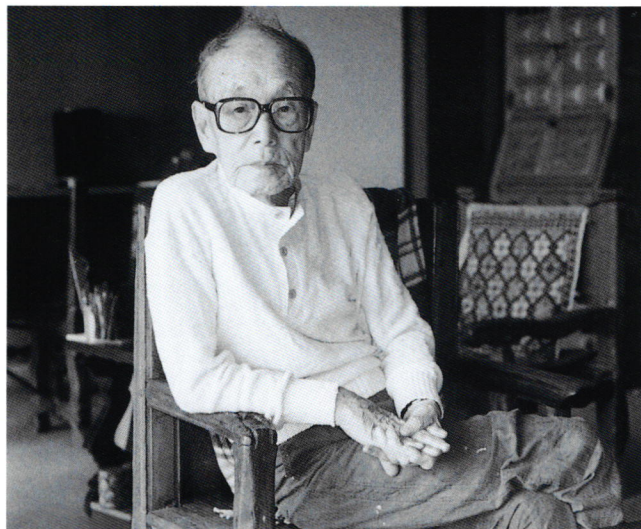


1988 薔薇

Nakagawa Kazumasa
Memorial Museum of Art

〒924-0888 石川県白山市旭町61番地1
☎ (076) 275-7532

中川一政の芸術



〔真鶴にて 1986〕

「私ははじめて生まれてきた。
だから、どう生きたらよいかわからずに這い出した。
どこへ行ってもぶつかる。
ぶつかって間違つた。
今度生まれたら、もっと卑屈にならず堂々と歩けるだろうし、
無駄もしないだろうと思う。
しかし、それはわからない。
矢張りまごついたり、いじけたり、物にぶつかって歩いてゆくの
が、人間というものかと思う。」

(中川一政「私の遍歴」より)

「美術は美しくなければならない。」と、一般にいわれる。しかし、中川一政画伯はそれをあえて否定する。たとえ美しくて形が整っていようと、訴えてくるものが何もなければ、それは死んでいるからだ。何かをまねたものは、決して生きてはいない。それが美しいものであろうとも……。たとえまずいところがあろうと、生きていればよいのだ。

「美術は生術であり、生きていることが最も肝要である。」画伯の芸術の根底には、感動がある。すべてのものは、この感動に支配される。その感動を殺さず画面に描くのが、画伯の芸術である。画伯は薔薇を描く。向日葵を描く。しかし画伯は、薔薇を描いているのではない。向日葵を描いているのでもない。薔薇や向日葵の感動を描きこんでいるのだ。

画伯の略歴

- 明治26年(1893) 2月14日、父政朝(金沢の刀剣鍛冶、松戸家より出る)母すわ(現白山市相川新町、清水家に生まれる)の長男として東京、本郷区西片町に生まれる。
- 大正 3年(1914) 21歳 北村亮造氏よりニュートンの絵具を贈られ初めての油彩画「酒倉」を描く。巽画会展に「酒倉」を出品し、岸田劉生の目にとまり入選。
- 大正 4年(1915) 22歳 岸田劉生を訪れる。草土社結成。
- 大正 8年(1919) 26歳 武者小路実篤、志賀直哉、長與善郎らを知る。
- 大正 9年(1920) 27歳 現在の白山市相川新町清水家にしばらく滞在し、肖像画、風景画等を描く。
- 大正11年(1922) 29歳 初めて、神田で油彩の個展を開く。
- 大正12年(1923) 30歳 石井鶴三、木村莊八、岸田劉生、椿貞雄らと共に春陽会の客員となる。
- 大正14年(1925) 32歳 伊藤暢子と結婚。
- 大正14年(1925) 32歳 訳書「ゴッホ」を出版
- 昭和 2年(1927) 34歳 釈書「ゴッホ」を出版
- 昭和 2年(1927) 34歳 現在の白山市北安田町明達寺の住職、曉島敏著『釈迦基督その他』の装丁をする。
- 昭和 6年(1931) 38歳 初めて麹町で、水墨画の個展を開く。
- 昭和12年(1937) 44歳 小川芋銭、菅橋彦らと墨人倶楽部を結成。
- 昭和18年(1943) 50歳 京都南禅寺無隣庵において、石井鶴三・中川一政水墨展を開く。
- 昭和24年(1949) 56歳 神奈川県足柄下郡真鶴町に、画室を建築。
- 昭和33年(1958) 65歳 光琳生誕300年記念展覧会が北京で開催され、団長として中国を訪問。
- 昭和35年(1960) 67歳 長與善郎・中川一政・武者小路実篤・梅原龍三郎四人展を開く。「漁村凱風」が全国知事会から東宮御所に献納される。
- 昭和36年(1961) 68歳 歌会始の儀が、皇居内仮宮殿の西の間で行われ、召歌を詠進。
- 昭和37年(1962) 69歳 ミュンヘン市立博物館において、現代日本美術に関する講演を行う。
- 昭和38年(1963) 70歳 中国で開催された日本現代油絵展の画家代表団の団長となり、中国を訪問。
- 昭和40年(1965) 72歳 ソ連文化省の招待で、同国美術演劇事情を視察した後、欧州9カ国を巡る。
- 昭和45年(1970) 77歳 妻暢子、死去。
- 昭和49年(1974) 81歳 パリで個展を開く。
- 昭和50年(1975) 82歳 中国文化交流使節日本美術家代表団名誉団長として中国を訪問。文化勲章受章。
- 昭和59年(1984) 91歳 東京都の名誉都民となる。
- 昭和61年(1986) 93歳 松任市の名誉市民となる。
- 昭和62年(1987) 94歳 10月10日、松任市立中川一政記念美術館開館。
- 昭和63年(1988) 95歳 美術館別館開館。
- 平成元年(1989) 96歳 中川一政の周辺特別展が行われる。
- 平成 2年(1990) 97歳 北國新聞に「独行道(卒寿をこえて)」を連載する。
- 平成 3年(1991) 98歳 アトリエのある神奈川県真鶴町に、真鶴町立中川一政美術館が開館する。
- 平成 3年(1991) 98歳 現代日本絵画巨匠二人展〜奥村土牛・中川一政をパリカルナバレ博物館にて開催する。
- 平成 3年(1991) 98歳 9月、中川一政文庫開設。
- 平成 3年(1991) 98歳 中川一政特別展が行われる。
- 平成 3年(1991) 98歳 2月5日、心肺不全のため死去。97歳